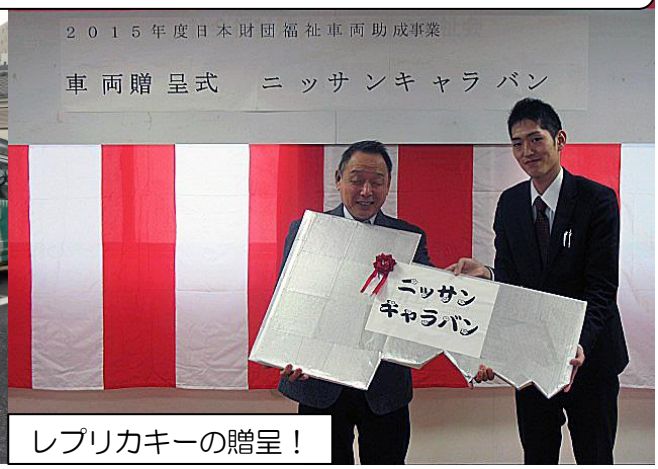
１９９５年　８月１０日　第３種郵便認可（毎週１回 水曜日発行）
２０１６年　３月２１日 発行　ＳＳＫＳ　増刊通巻　第６７００号

財団法人 日本財団

２０１５年度福祉車両助成事業　贈呈式

カラフルでかわいらしいボディカラー！



レプリカキーの贈呈！

三月十四日、ワークセンターこむたんにおいて、日本財団二〇一五年度福祉車両助成事業によるニッサンキャラバンの贈呈式を行いました

この事業は、財団法人日本財団による福祉車両の助成事業で、日本財団仕様として指定された車両の購入費の六割を助成していただくものです。今回、助成をいただいた車両は、左上のような車椅子が四台装着できる送迎用のリフトバスです。「ワークセンターこむたん」という施設名が入った初めての車両となりました。

贈呈式

贈呈式は、ワークセンターこむたんの四階ホールにて開催し、日産プリンス西東京販売株式会社の西森様、あけぼの福祉会理事、職員、利用者が参加をして執り行いました。

施設長より経過報告がなされた後、祝電の披露、日産プリンス西東京販売様からは車両の紹介をいただきました。そして、いよいよレプリカキーの贈呈へと式は移ります。手づくりのかわいらしいレプリカキーをしっかりと手渡していただきました。理事や利用者代表からも感謝の言葉が述べられましたが、特に利用者からは、「自分で通うことができないので本当に助かります」との言葉が寄せられました。障害があることで公共交通機関での通所が難しい人にとって、送迎による通所保障は、欠くことができません。特に今回は、車椅子のまま四名乗車できるリフトバスが新たに一台配備でき、効率的な送迎や集団での外出などの可能性が大きく広がりました。

財団法人日本財団様、誠にありがとうございました。障害のある人のために有効に活用させていただきます。

施設名が入った初めての車両！

送迎のはなし

～必要な人全員への送迎保障～

障害のある人が作業所などの日中活動の場に通うのにどんな交通手段を使っているか知っていますか?実は、あけぼの福祉会の三つの施設では、自らの力で公共交通機関等を利用して通所している人は少ないのが現状です。つまり、電車やバスあるいは徒歩で通うのに支援が必要なのです。しかし、移動支援等のサービスは通勤、通学には使用できません。また、公共交通機関利用そのものが大きな負担となる人も大勢います。

まずは通所保障を!

こうした通所手段を支えるのが、「送迎」つまり車での送り迎えです。府中共同作業所が小規模作業所として運営されていた頃は、この送迎は専ら家族が担っていました。しかし、「家族の体調が悪く送迎ができないので休みます」といった具合に、家庭の事情で通所そのものが左右されてしまう事態が生じていました。

そこで、「まずは、通うということを何とか保障しよう!」と、必要とするすべての利用者の送迎をめざしました。

しくみはどうなっている?

送迎に関わる経費は、今でこそ加算という形で公費が支給されていますが、以前はこうした経費はまったく支弁されていませんでした。そこで、無いしくみを補うために、施設は車両を確保し、運転は職員が、利用者や家族には決まった時間に決まった場所に出迎えてもらう、いわゆる「バスストップ方式」での送迎を行いました。添乗員まで人手を割けないため、職員が車両から離れず対応できる車まで出てきてもらう形です。

では、現在はどうなっているのでしょうか?実は、前述に公費が出ていると書きましたが、その額は年間のガソリン代、保険料程度です。車両の購入費あるいはリース料、運転手の人件費など総費用からすれば一部にすぎません。

望まれる形は?

車椅子の人が乗車できる車両は、乗車人数が限られるため、できればマイクロバスなど大型の車両が必要です。でなければ台数を多く確保する必要があります。府中生活実習所のように広域からの利用に応える施設では、それに要する送迎時間が、片道一時間近くに及ぶことも少なくありません。これらを現場の支援員が対応するとなると負担も大きくなります。また、運転を仕事にしている訳ではありませんので、降雪時などは送迎を見合わせざるを得ないのが現状です。

では、望まれる形はどんな形でしょう。私たちは、特別支援学校や公立施設がそうであるように、専門業者に委託する形が望ましいと考えています。つまり、それができる公費保障が望まれるのです。

そして、最も望まれるのは、移動支援を通勤時、通所時も対象とし、個々に移動するための支援が得られるようになることです。集団送迎以上に個々の自由度が広がり、それぞれの生活が描きやすくなります。

障害があるから「集団での送迎」ではなく、他の者と平等に自らの選んだタイミングで、自らの選んだ方法で通所をし、時には仲間同志で寄り道して帰る。そんなあたり前なことが保障できればと願うばかりです。